

演 習 林 記 事

(昭和39年度)

目 次

は し が き	48
I 人 事	48
II 管 理	48
III 予算および決算	48
IV 経 営	52
V 調 査 研 究	53
VI 職 員 研 修	54
VII 演 習 林 協 議 会	54
VIII 全国大学演習林長協議会	54
IX 学 生 実 習	54
X 学 部 構 内 樹 木 の 管 理	55
XI 消 防	55

は し が き

演習林報告第1号、第2号に連載した演習林記事を本年も掲載して、演習林の記録としたい。第3号には、主として昭和39年度に限って掲載した。

I 人 事

演習林長には、山畑一善教授の任期満了に伴い、昭和39年4月1日から松島良雄教授（林政学）が就任した。篠崎豊記技能員（勝山試験地）が昭和39年3月31日付で事務局会計課管理係へ配置換になり昭和39年4月6日付で山本正男が行（二）4等級（技能員）に採用され、米野々管理事務所の作業所勤務となった。これで勝山試験地には永井主任だけとなり、作業所には尾上主任以下4名となった。

II 管 理

尾上卓二氏から寄付申し出があった管理事務所隣接地83.71坪は、昭和39年8月31日付で寄付採納になり、同氏に記念品を贈呈した。これで管理事務所敷地は合計238坪4合1勺となった。

III 予算および決算

演習林経営内規第45条第2項の規定に基づき農学部長あてに提出すべき「演習林事業報告書」は、

昭和38年度分は昭和39年11月21日付で、昭和39年度分は昭和40年5月31日付でそれぞれ提出したので、まずそれによって確定予算および決算を記すこととする。

昭和38年度 予算および決算

A 演習林

歳出予算 校費

経常予算	1,619,000円	
賃金職員定員化振替	△ 130,000	
庁費	6,500	(学部内配分)
教官研究費	128,700	(学部内配分)
ジープ購入費	800,000	
設備更新費	180,000	
小計	2,604,200	
その他	137,965	
計	2,742,165	

旅費

職員旅費	102,000円	
林長会議旅費	28,000	
連絡旅費	8,000	(学部内配分)
教官研究旅費	31,900	(学部内配分)
その他	10,003	
計	179,903	
合計	2,922,068	

歳出決算 校費

育林事業	883,379円	(賃金率 95.6%)
育苗事業	242,811	(" 70.1%)
調査事業	29,481	(" 62.4%)
土木事業	24,633	(" 95.8%)
林産事業	48,415	(" 96.7%)
学生実習	146,753	(" 11.1%) (他に毛布, 掃除機等)
試験研究	235,706	(内演習林報告80,000 気象観測設備85,900他)
一般管理	187,272	(本部費率 63.6%) (事務所費率 36.4%)
ジープ購入費	920,000	
計	2,718,450	

旅 費

全国大学演習林長会議出席	66,600円	(東京, 三重各2名)
研修	24,220	(高松, 面河, 大生院)
学生実習指導	25,843	
調査	4,265	(経営計画編成)
業務連絡	54,365	(主として米野々・松山間)
小計	175,293	
他へ貸	4,610	
計	179,903	
合計	2,898,353	

歳入決算

立木処分	3,144,000円	1644m ²
素材	758,600	62m ² (間伐, 37年度生産, 38年度処分)
苗木	497	355本
生椎	1,180	11.8Kg
木炭	4,026	264Kg
合計	3,908,303	

B 庭園才出予算

学内庭園管理費	98,600円	(学部一般管理費から)
環境整備費	43,100	(大学本部費から)
合計	141,700	

歳出決算

学内庭園管理費	100,015円	(備品器具等 35,350 肥料 14,120 樹名札 30,000 薬 剤 5,151等)
その他	65,400	
合計	165,415	

昭和39年度 予算および決算

A 演習林

歳出予算 校費

経常予算	2,510,000円	
賃金職員定員化振替	△ 130,000	
庁費	8,400	(学内配分)
教官研究費	155,633	(学内配分)

自動車維持費	62,000	(学内配分)
節約分	△ 9,788	
設備更新費	180,000	
小計	2,776,245	
その他	6,092	
計	2,782,337	
旅 費		
経常予算分	168,765円	
節約分	△ 1,741	
小計	167,024	
その他	14,610	
計	181,634	
合計	2,963,971	

歳出決算

種 目	校 費			旅 費	計
	労 賃	そ の 他	計		
	円	円	円	円	円
新 補 植	338,140	143,309	481,449	310	481,759
苗 畑	156,920	47,463	204,383	260	204,643
保 育	221,700	76,636	298,336	—	298,336
学 生 実 習	30,600	22,627	53,227	19,380	72,607
試 験 研 究	—	217,010	217,010	40,709	257,719
調 査	4,000	12,074	16,074	740	16,814
土 木	67,940	25,933	93,873	395	94,268
伐 採	690,865	298,779	989,644	395	990,039
製 炭	—	939	939	—	939
維持管理(本部)	—	102,757	102,757	100,805	203,562
同上(事務所)	—	165,891	165,891	18,640	184,531
小 計	1,510,165	1,113,418	2,623,583	181,634	2,805,217
そ の 他	56,000	4,234	60,234	—	60,234
翌年度へ繰越		98,520	98,520		98,520
合 計	1,566,165	1,216,172	2,782,337	181,634	2,963,971

歳入予算

	3,343,000	
--	-----------	--

歳入決算

素材, 主伐, スギ, 他	2,850,000	12,921本	307.944m ³
素材, 間伐, スギ	428,600	1,212本	47.505m ³
黒炭, ザツ	7,420	28俵	
苗木, スギ, 他	62,700	19,360本	
合 計	3,348,720		

B 庭 園

歳出予算

経 常 費	102,500円
臨 時 費	128,000
合 計	230,500

歳出決算

種 目	校 費		旅 費	計
	労 賃	そ の 他		
経 常 費	—	104,830	—	104,830
臨 時 費	69,600	57,264	—	126,864
翌年度へ繰越		△1,194	—	△1,194
合 計	69,600	160,900	—	230,500

次に、昭和38年度予算で特記すべきは自動車購入費と教官研究費および庭園維持費であるが、これらについては演習林報告第2号第79頁に詳細記載してあるから、ここには省略する。ほかに、演習林報告第1号を刊行したこと、および米野々事業区内に気象観測設備をしたことは、同報告第2号第81頁に記載してある。

昭和39年度予算で特記すべきは、歳出予算において、教官研究費が増額（37年度70,000円、38年度128,700円）になったこと、および自動車維持費62,000円が新たに配付されたことである。なお、歳入予算として、昭和39年度に初めて3,343,000円の配当があった。これは国立学校が特別会計となったため従来なかったことであるが、関係者一同努力の結果、幸いにして歳入予算以上の収入をあげることが出来た

IV 経 営

1) 昭和39年度において、新規概算要求としては、職員純増、大西山林の購入、林道歩道の整備等を要求し、演習林特別設備費としては、勝山試験地スプリンクラー設備費1,185,000円および岩屋小屋作業所自家発電装置1,000,000円を要求したが、いずれも実現しなかった。また営繕工事として

は、自動車車庫および倉庫、管理事務所便所増築、林内管理舎、試験地管理室および堆肥舎等を要求したが、いずれも実現しなかった。

昭和40年度において、新規概算要求は、昭和39年度の要求と同様に要求をしている。施設設備費としては、都合により勝山試験地スプリンクラー設備費のみを要求した。営繕工事としては、昭和39年度に要求した以外に、米野々演習林管理事務所敷地拡張に伴う擁壁および埋立工事2,889,000円、演習林内林道新設（40年度分）2,348,000円、演習林実習用地購入4,500,000円を要求した。

2) 昭和38年度立木処分地3林班い小班のうち9.40haに対しては、昭和39年11月18日伐採搬出を完了、11月20日跡地検査を了した。

3) 4林班い、ろ、に小班の立木、主としてスギ他約370m³を直営伐採し、素材で12,921本、約308m³を生産し、昭和39年12月4日公売に附し、玉井久計に285万円で落札売却した。

4) 1林班い小班でスギ約13m³を間伐し、素材281本、約12m³を生産し、随意契約で2月15日松岡甫に125,100円で売却した。

5) 昭和40年度以降の直営伐採の準備として、4林班は小班に面積約0.1haの土場を新設した。所要経費は約6万8千円であった。

6) 昭和40年2月24日、演習林内岩屋小屋林道の橋梁（2ヶのうち上）1基が腐朽のため破損、通行不能となった。これは昭和35年度に改造架橋したものである。

7) 昭和39年3月18日の豪雪のため、1,2林班のスギに雪害があった。約46m²、被害見積額約15万円である。目下伐採整理中である。

8) 音田林道で昭和39年9月24日発生した災害（道路の決潰）を復旧した。工事費24万円のところ、演習林として12,944円を分担した。

9) 継続事業として、県で施行中であった4林班と私有林との境の堰堤は、本年度4個を建設した。昭和37年度2個、38年度4個、計10個となった。

V 調査研究

1 昭和39年6月、演習林報告第二号を発行し、第一号と同様国内関係機関はもとより国外では14ヶ国43の大学および試験研究機関に配布した。アメリカ・スウェーデン・スイスからは多数文献の寄贈があった。

2 勝山試験地で高瀬助教授・大西助手の共同により、前年に引きつづいて、「苗畑雑草抑制試験」を行なった。

3 昭和39年1月1日米野々演習林4林班は小班で気象観測を開始し、満1年を経過した。その成果は次の通りである。なお本年度から気温・湿度・降水量のほかに蒸発量の観測を追加した。

種目別	月別												計	平均	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
気	平均	2.5	0.5	3.7	15.0	13.9	16.9	22.2	22.3	19.5	13.8	7.2	3.3	140.8	11.7
	最高	5.1	2.9	7.9	19.1	19.2	20.5	26.1	26.9	22.8	17.3	10.7	6.1	184.6	15.4
	極	12.5	12.0	19.5	25.5	24.5	25.5	28.5	29.5	27.0	23.5	20.0	11.0	259.0	21.6
温	最低	(-) 0.3	(-) 2.1	(-) 1.3	11.5	9.5	13.7	18.9	18.8	16.8	10.4	4.1	(-) 0.4	99.6	8.3
	平均	(-) 5.0	(-) 6.0	(-) 5.0	6.5	4.0	8.5	14.5	16.0	9.5	6.0	(-) 2.5	(-) 3.5	43.0	3.6
	極	(-) 5.0	(-) 6.0	(-) 5.0	6.5	4.0	8.5	14.5	16.0	9.5	6.0	(-) 2.5	(-) 3.5	43.0	3.6
湿度	平均	72	71	65	73	65	74	72	74	73	67	67	66	839.0	70
	低極	35	31	22	17	14	28	38	41	30	30	27	34	347.0	29
降水量	月	43.6		57.6	223.8	127.5	387.5	96.4	178.8	212.2	87.6	116.7	16.6	1548.3	129.0
	日平均	—	0.1	1.9	7.5	4.1	12.9	3.1	5.8	7.1	2.8	3.9	0.6	49.8	4.1
	日最大	—	—	—	46.2	39.4	105.0	62.2	102.2	122.4	—	25.8	—	—	—
	3時間最大	—	—	—	30.8	31.2	56.0	35.0	58.6	82.4	—	22.2	—	—	—

気温：度，湿度：%，降水量：mm

- 4 第2次経営計画編成方針の作成が遅れたが、昭和40年5月28日、演習林協議会に諮問した。

VI 職員研修

- 1 昭和39年4月5～9日、高瀬次長は京都大学における日本林学会講演会に講演のため出張した。

昭和39年10月23・26日、渡部所長は松江市における日本林学会関西支部講演会に出席した。

- 2 39年8月18・19日、高瀬次長・大西主任は、愛媛県主催、航空写真講習会に参加した。

- 3 39年9月3日、管理事務所で開催せられた愛媛県主催「林業研修教室」を所員が傍聴した。講師は県森連砂野技師、演題は「造材方法について」であった。

- 4 39年10月2日、管理事務所所員は、愛媛農業祭会場のうち主として林業試験場を見学した。

- 5 40年1月26日、管理事務所において、愛媛菱和KK、梅本係長による「自動車取扱および構造について」（スライド使用）を受講した。

- 6 40年2月23日、愛媛県技師大野紀氏による「集材機の取扱法」（第3回）を受講した。

- 7 40年3月30日、管理事務所所員は西条営林署円山苗畑を見学した。

- 8 大西主任は39年8月広島へ、40年3月徳島へ、わさび栽培調査につき出張した。

- 9 尾上技官は40年2月、徳島県上阿賀町の民有林の経営状況につき研修した。

VII 演習林協議会

昭和39年11月20日（金）第7回演習林協議会を開催、昭和38年度事業報告書承認に関する件、第2次経営計画編成方針に関する件を付議、ついで演習林長から前回以後の業務につき報告があった。

VIII 全国大学演習林長協議会

全国大学演習林長会議への出席者および当演習林からの提出議案等は次のとおりである。

- 1 昭和39年5月15・16日、於 東京大学農学部1号館

出席者 演習林長 松島良雄、演習林次長 高瀬五郎

承合事項 1 演習林専任教官の研究費および研究旅費について

2 演習林実習に伴う講座関係教官の出張旅費支弁について

3 演習林報告投稿論文の事前審査について

- 2 昭和39年10月22・23日 於 栃木会館4階第6会議室

出席者 演習林長 松島良雄、事務主任 松沢匡房

要望事項 1 収入予算額決定に当たり大学から提出した収入見込額に、所謂積算分を加算することについて

2 国立大学部分林を国有林地域に設定することについて

承合事項 1 併用林道および林道使用料について

2 直営生産の取扱規則および単価請負、出来高払いについて

IX 学生実習

本年中に実施された演習林実習は下記のとおりである。なお造林学実習のうち、育苗実験実習は勝

山試験地において年間を通じて実施している。

実習種別	期 間	担 当 教 官	学 生
森 林 工 学	39年 7月12～14日	山田教授, 伏見助手	4 回生, 21名
森 林 計 画 学	39年10月15～19日	山畑教授, 藤本助教授 玉井助手	4 回生, 20名
林 木 測 定 学	40年 3月 5～10日	山畑教授, 藤本助教授 玉井助手	3 回生, 23名
造 林 学	40年 3月10～13日	中島教授, 辻田助手	3 回生, 25名

X 学部構内樹木の管理

昭和37年度から附属演習林の所管事項となった学部構内樹木の管理は、学部の校舎の改築が予定せられるに伴い、構内樹木の移植、根廻し、除去等急に多忙となった。そのため予算も従来の経常費以外に臨時費の配付を受けた。仮植地に移植したもの111本、根廻ししたもの31本、除去したものの17本である。(3月末現在) 40年度もほぼ同様の作業が継続されるものと考え。

XI 消 防

- 1) 39年 6月22日, 演習林長以下全員管理事務所に集合し, 防火全般につき打ち合わせをした。
- 2) 8月22日, 事務長・同補佐・庶務会計両係長その他が, 管理事務所において, 自主検査を行った。
- 3) 昭和40年 3月23日, 日浦地区消防団員 5名によって, 全事業区内の防火診断を実施した。